

育てよう

鏡野のよい子シリーズ



「子どもの失敗を見守る大人に」

最近、野外体験活動を主催する団体の「親子キャンプ」に参加させていた。スタッフの方から活動についての説明を受け、二つの家族が一つのグループとなり、相談しながらテントを張ったり、食器の材料にする竹を取りに行ったり、かまどを作り、火を起したりし始めた。どのグループも大人が率先して動き、子どもに手伝わせないでテキパキと活動を進めている。

そんな様子を見ながら、一人の男性スタッフがにこにこしながら、ぼそっとつぶやく声が聞こえた。「ああ、上手くいっちゃってるなあ。残念。」

どうしてそんなことを言うのか不思議に思い、私はその意味を尋ねた。すると彼は、

「大人はね、すぐ何とかしちゃうんですよ。でもね、ぼくは子どもたちが困るところが見たい。上手くいかなくて、なんとかしようとするところが面白いんですよ。だから、ぼくは子どもにどうしたらいいか聞かれても、何も教えないんです。」

なるほど、と思った。大人は今まで

の経験から、安全に効率よく行う方法を考え、つい子どももより先に動く。そして、子どもが何か始めようものなら、「それじゃ危ない。」

と教えたがる。せっかく子どもたちが試行錯誤せざるを得ない状況があるのに、大人がその学びのチャンスを奪ってしまうのである。彼はこう続けた。

「子どもたちだけでキャンプをする」と、最後までなかなか火を起こせないグループもあります。子どもたちは、お腹を空かせながら『どうしたら火を起こせるんだろう』って考えるんです。そこでやり方を変えたり、他のグループの様子を見たりして学んでいます。そして、最後にはなんとかするんですよ。自分たちの力で出来た時の喜びは一生忘れられないと思います。」

日常生活の中にも、もっと子どもの自由に任せられることはないだろうか。そして、「失敗は大きな喜びをかむチャンス」だと、期待をもって大らかに見守ることはできないだろうか。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

香北小学校 延原 健太

のびのびひろば

福の神さんから
お菓子をもらったよ

おには〜そと♪ふくは〜うち!

郷幼稚園では今年もOBの保護者の方たちが鬼をしてくださり、顔はちょっと怖いけど心はとても優しい鬼さんが豆まきに来てくれました。子どもたちは、一生懸命豆を投げていましたよ!!

鬼さんが帰った後は優しい福の神さんが来てくれ、皆にお菓子を配ってくれました。その後は、巻きずしレースをしました。巻きずしを落とさないようにがんばって運びました。



年少・年中さんは
お揃いのお面を作ったよ

優しい鬼さん
福の神さん

年長さん!オリジナルのお面や
衣装を手作りしたよ

豆まき
するよ~!!!!

巻きずし
レース!!

(郷幼稚園)